

**全国在宅療養支援診療所連絡会 第3回全国大会 プログラム別詳細**

<b>内容</b>	シンポジウム
<b>タイトル</b>	様々な在宅医療を支えるチームの工夫
<b>日時</b>	平成28年3月13日 13:40-16:10
<b>会場</b>	第2会場(503)
<b>座長</b>	英裕雄(医療法人社団三育会/新宿ヒロクリニック)
<b>演者</b>	佐々木淳(医療法人悠翔会) 紅谷浩之(オレンジホームケアクリニック) 中野一司(ナカノ在宅医療クリニック) 白髭豊(医療法人白髭内科医院) 織田暁寿(ホームクリニック柏) 川名 理恵子(横須賀市健康部地域医療推進課)
<b>企画趣旨・概要</b>	<p>在宅医療はチームアプローチでなければならないということに論は待たない。しかし一口に在宅医療と言っても、対象患者の年齢も、小児から高齢者まで幅広く、対象疾病もがん、神経難病、脳卒中、骨関節疾患や精神疾患などなど幅広い。さらにはそれぞれの家庭の状況や地域の介護サービス状況も大きく異なり、必然在宅医療の在り方はそれぞれ大きく異なっていると言える。どれ一つとして同じ在宅医療はないと言ってもいいほど、在宅医療は千差万別性を持っていると言わざるを得ない。</p> <p>また同じ患者の在宅医療であっても、時には介護的に対応することもあれば、時には医療的に、時にはリハビリ的、時には緩和的、あるいは治療的に予防的に、療養の時期によって対応の仕方や重点を変えていくことも少なくない。このような千差万別性も高く、時期によって変幻自在ともいえる在宅医療を支えるチームの工夫とは、いったいどんなものがあるのだろうか？</p> <p>リーダーシップだろうか？情報の共有化だろうか？教育や研修だろうか？理念だろうか？顔の見れる連携だろうか？疑問は尽きない。</p> <p>本プログラムでは、各地で先駆的にチーム作りに取り組んでいて、しかも実績のある諸先生にご登壇いただき、まずそれぞれのチーム作りの工夫や実情や課題、そして今後などについて、ご教授いただきたいと考えている。</p> <p>またその後演者の先生方とのディスカッションや会場参加者との質疑応答を通じて、地域事情やリーダー毎の差異を超えた何かの共通点やエッセンスを抽出し、参加者各位のそれぞれの現場におけるチーム作りの参考に資することができたらと思っている。</p> <p>チーム作りに悩まれていたり、チームの在り方に関心がある方にぜひ多くご参加いただきたい。</p>

(敬称略)